

7. 今後の課題

7-1. 工事中における安全性の確保

7-1-1. 待合部門、火葬部門の配置

現在の待合部門、火葬部門の位置関係を維持した設計とした場合、解体工事中の動線計画が複雑になるため、両部門を逆に配置したほうが動線を整理しやすくなる場合があることが考えられる。

ただし、その場合は、火葬部門と隣接する敷地（畑）の所有者への説明、配慮が必要となる。

7-1-2. 既存施設解体中の出入口

既存施設解体中は、正面出入口が使用不能となることが想定されるため、維持・管理または避難等のために作られた別の扉を出入口とすることが必要となる場合が考えられる。

7-1-3. 工事中の振動・騒音対策

防音仮囲いパネル、防音シートの使用といったハードウェア的な対策の他に火葬場の利用が終了する時刻以降に工事を行うといったソフトウェア的な対策の必要性も考えられる。

7-2. キャンピアー

7-2-1. キャンピアーの大きさ

他事例では、奥行を10mとする等、比較的長いものが多いが、当計画の検討では奥行の確保に限度があることから、建物の全体配置及び風雨や積雪に対し、最低限必要な長さや奥行等をふまえ、適正な寸法を設定する。

7-3. 良好な景観の保全・創造

7-3-1. 施設からの景観

墓地等直接見せたくないものや、遠景の山並み等の見渡せるようにしたいものの、隠し方や見せ方に工夫が必要と考えられる。（低めの築山（盛土）や低木によって近景の視線を遮りつつ遠景の山並みは見渡せるようにする等）

7-3-2. 外部からの景観

道路や近隣からの視線に対しては、施設の全貌を直視できないような緩衝緑地帯等の植栽に工夫が必要と考えられる。

7-4. 管理体制

7-4-1. 管理体制の見直し

現施設の面積に比べ、新施設の面積は倍以上の面積となり、各部門間の導線も長くなるため、管理者1名のみでは火葬炉運転作業と待合会葬者対応が両立できなくなる可能性がある。

従って、運営体制については現在の1名での運営から、2名以上での運営体制をとる必要性があると考えられる。